

清水町外原区長と交わされた覚書等の法的拘束力は

問 昭和五十一年から稼働している現在のごみ焼却場の建設に当たり、昭和四十九年に沿津市長と清水町外原区長との間で交わされた覚書等について、①将来、一ノ洞、二ノ洞、三ノ洞には焼却場を建設しない、市長が変わっても本覚書等には効力がある旨の記載があるが、焼却場を建設しない旨の覚書等に相違したことに対する市の対応は。②覚書等の有効性に対する本市の認識は。

答 生活環境部長／①平成二十年から関係自治会等に対し、ほかの建設候補地を検討してきたものの、適地が見つからなかった経緯等を説明し、



▲昭和 51 年に建設した現焼却場

本覚書等に相違したことについて謝罪を行ってきた。②覚書等には法的な拘束は無いものの、可能な限り尊重していければと考えている。一方で、新中間処理施設整備基本計画については、必ずしも覚書等に沿わない事項があることも事実であり、それについては地元住民に丁寧な説明を行い、御理解いただけるように努めていきたいと考えている。

江本 浩一 形式 一問一答

アニメを契機としたまちづくりに対する認識は

問 アニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」の観光宣伝を活用した新たなまちづくりに対する本市の考えと今後の取り組みは。

答 産業振興部長／アニメによる認知度の高まりにより、三浦地区を初め、中心市街地の商店などにも多くのファンが訪れ、回遊が生まれていると認識している。これまでも燦々ぬまづ大使である Aqours とコラボレーションし、にぎわいづくりに取り組んできた。今後も、活力に満ちた元気なまちづくりに向け、市民、地域、事業者と一丸となつて取り組んでいく。

問 本市北部地域の土地利用に対する認識は。

答 都市計画部長／本市北部地域は、今後、東駿河湾環状道路西區間や都市計画道路金岡浮島線等の整備により広域的な交通アクセス向上が見込まれるため、第二次沿津市都市計画マスタープランにおいて新たな交通基盤を生かした産業立地検討ゾーンとして位置づけ、新たな発展を牽引する産業の導入を検討している。



▲整備が進む都市計画道路金岡浮島線

井原 三千雄 形式 一括

多胎児を抱える家族に対する支援の状況は

問 双子や三つ子などの多胎児を抱える家族について、①本市の認識は。②ニーズに合ったきめ細やかな支援が必要と考えるが、本市の取り組み状況は。

答 市民福祉部長／①多胎児を抱える家族は、同時に二人以上の妊娠、出産、育児を行うことに伴い、身体的、精神的な負担や経済的な問題、社会からの孤立など、多胎児ならではの困難さがあるものと認識している。また、妊娠、出産においても、低出生体重児が多いなど、医学的なリスクも高いものと認識している。②さまざまなニーズを把握し、多胎

兄弟が同じ保育園に入所できないケースへの対応策は

問 保育園等への入所については、子供や保護者のことを考慮すると、兄弟は本来同一の保育園に通うことが最優先されるべきだと考えるが、同じ保育園に入所できないケースが発生することの理由とその対応策は。

答 福祉事務所長／保育園等への入所は、入所基準に基づき保育を必要とする家庭事情を勘案し、優先順位をつけて決定しており、入所申し込みの時期によっては優先順位から漏れてしまうことがあり、別々の園に入所することで負担をかけてしまうことになることと認識している。入所基準においては、既に兄や姉が希望園

に入所している場合は、加点により優先されるよう配慮しているが、今後、基準自体の見直しも総合的に検討し、きめ細やかな入所調整に努めていきたいと考えている。

問 兄弟が別々の保育園に通っている場合の災害時の対応は。

答 福祉事務所長／災害時の対応については、各園において災害マニュアルに基づき児童の安全確保を図ることとしており、市としてはその状況の確認を行うこととなるが、兄弟が別々の保育園に通っている場合は、各園が相互に連絡、調整を図るよう働きかけていきたいと考えている。

山下 富美子 形式 複合

片岡 章一 形式 一問一答

児世帯の負担を軽減していくことは重要と認識していることから、本市では、保健師、看護師等が妊娠、出産、育児に関する一人一人の状況を把握し、必要に応じて医療機関との連携や養育訪問などの支援を行っており、多胎妊娠を把握した場合は特に注意し、妊娠中からの継続的なアセスメントを行っている。また、親同士が直接交流する場を設けることは効果的な支援であると考え、平成三十年に発足した多胎児サークルの活動紹介等の情報提供や、活動の場として保健センターを貸し出すなどの支援を積極的に行っている。